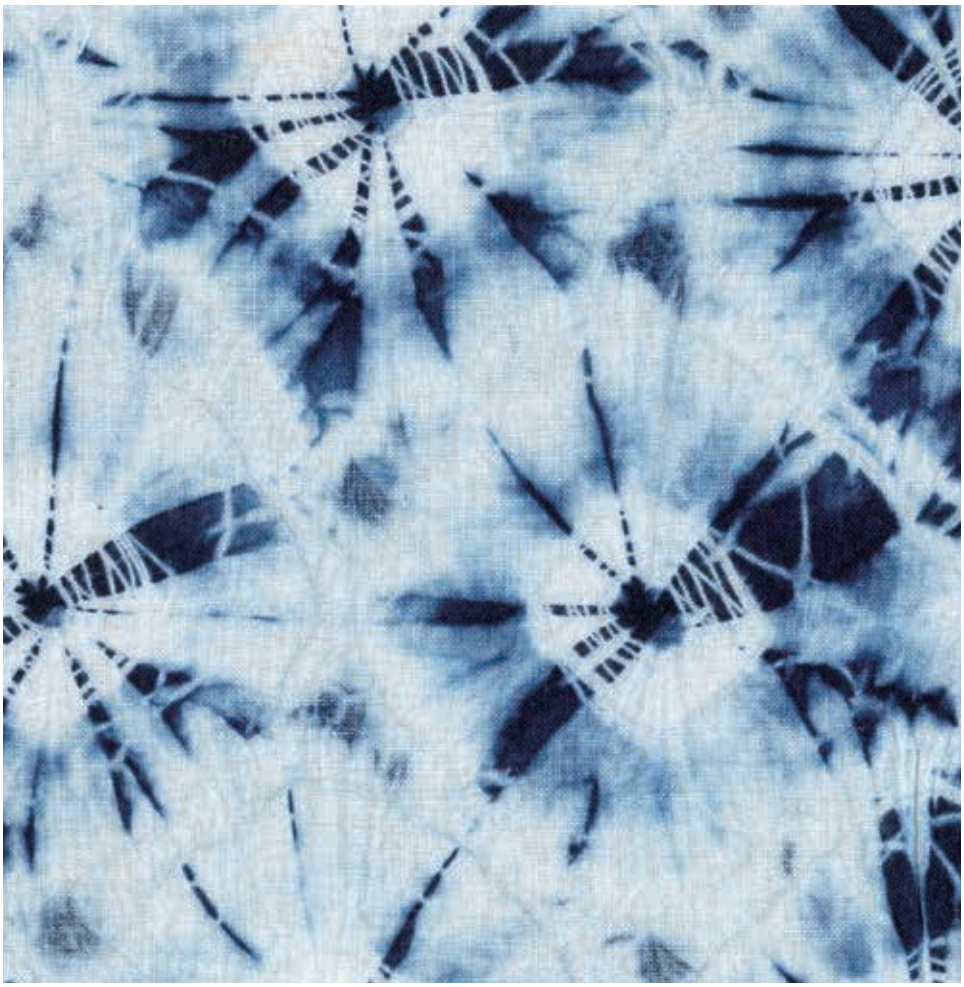
JAPAN HERITAGE
日本遺産

有松

NO.88 有松まちづくりの会



◇ほおずき絞り

ほおずき絞りは（手蜘蛛）根巻き絞りに加え、一番上の部分、鈎針に引っ掛けた部分も数回絞ります。
絞り上がった状態がほおずきに似ているところからその名がつけられました。

解説：竹 田　昌 弘

すべては誇りうる故郷のため　未来のために

有松まちづくりの会副会長　藤枝　靜次

未曽有の感染症との共存にも少し目途がたち、希望の持てる春となりました。

有松のまちは令和元年（２０１９）愛知県で唯一「地域型」の日本遺産として認定されて以来、文化庁からご支援をいただきながら、多方面にわたり実に様々な日本遺産事業を用意してきました。それらは全て開村以来４００年余の間、有松が歩んできたストーリーや有松独自の文化を未来に繋げて行くためです。しかし新型コロナ感染症の壁に阻まれ、思いのこもった事業そのものを断念したり、実施をオンライン主体にしたりと十分にはその成果をあげられないままの取組みとなったものもありました。そして本年度は自走化の４年目を迎えています。

その本年度は嬉しいことに、２０２２年６月に３年ぶりの有松絞りまつりが開催され有松のまちには一気に活気がみなぎりました。７月から10月には国際芸術祭あいち２０２２の会場となり、全国各地から８万５千人もの方々をお迎えしました。また10月には、やはり３年ぶりに山車まつりが挙行され、美しい町並みの東海道で、豪華なからくり山車を優雅な祭り囃子を聴きながら曳行する人も、それを見る人も目を輝かせ、まつりの魅力を再認識できました。そして11月には延期が続いていた全国町並み保存連盟の東海ブロックゼミ有松大会を開催させていただくことができました。ご参加いただきました伊勢河崎の皆様、しずおか町並みゼミの皆様、連盟事務局の山本様には厚く感謝申し上げます。また、お忙しい中、駆けつけてくださり、有松にアドバイスをくださった河村市長様、ありがとうございました。

さて、表題とした「すべては誇りうる故郷のため　未来のために」とは、有松開村４００年事業（２００８年度）の折りのスローガンですが、日本遺産に認定された有松のまちのストーリーの芯はまさにここにあると思いもう一度皆さんに呼びかけたく記しました。思いをひとつにし日本遺産のまち有松、愛すべき有松を国の内外に発信しようではありませんか。

有松山車まつり（有松郵便局前）
切り絵　豊田信行

有松地区における古民家利活用の考え方について

名古屋市観光文化交流局
歴史まちづくり推進室　事業推進係長　水野　雅彦

◆有松地区における古民家利活用の考え方について

平素より、本市の歴史まちづくりの推進に対し、ご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。この場を借りまして、改めて御礼申し上げます。

さて、令和4年度に入り、本市は有松の歴史的な町並みを構成する貴重な歴史的建造物（ここでは古民家と総称します）が様々な理由により維持が難しくなってきている現状を踏まえ、この町並みを後世に引き継ぐために古民家をどのようにして保存活用していくか、アンケートをはじめとする調査等を行いました。

そこで判明した課題は、以下の5点です。

①有松の産業の縮小や高齢化により、遊休化する古民家が増えていること
②所有者は知らない人に貸したくない気持ちがあり、また相談する人がいないため、一般的な不動産として流通しないこと
③建物が大きいので、維持管理や修理のお金が負担となっていること
④有松は、今も残る町並みに今も人々が暮らしていることに価値がある。そのような町並みと住環境を維持するためには、規制や調和に対する理解が必要であること
⑤来ていただいた方々が気軽に立ち寄れる場所が少なく、滞在時間が少ないため、地域資源を満喫できていないこと

そこで、これらの課題を解決し、有松の活性化を図るため、古民家を利活用するための基本的な考え方として、次の3つを掲げ、取り組みを進めてまいります。

①地域全体で古民家の維持・活用に取り組む
②本物の歴史や文化に出会い、ゆっくり楽しみながら交流できるまちを目指す
③既存の住環境や産業との調和を図る

◆岡家住宅について

令和3年度に本市が取得いたしました岡家住宅につきましては、有松あないびとの会にお願いし、暫定的に土日のみ公開しておりますが、「歴史的建造物を常時公開している施設がない」という有松の課題を解決すべく、常時公開施設として整備を検討しております。

また、日本遺産有松の魅力を紹介する拠点施設がないことから、日本遺産ガイダンス施設として活用することを想定しております。

スケジュールとしては、まず令和4年度、令和5年度の2ヵ年をかけて「岡家住宅保存活用計画」を策定する予定です。令和4年度は、ボーリングによる地質調査のほか、有識者等による懇談会を開催し、岡家住宅の文化財的価値がどこにあるかを議論してまいりました。

保存活用計画を策定した後は、設計等を行い、工事に入っていく予定です。

工事が始まってしまうと暫定公開ができませんが、工事が始まる前までは、今と同じように暫定公開を続けていく予定です。

◆今後について

古民家利活用事業や岡家住宅の状況につきましては、今後も歴史まちづくりニュース等を活用して皆様にお知らせしてまいります。

皆様方には、引き続き本市の歴史まちづくり施策にご理解とご協力をたまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。

有松史料調査保存会　第２回発表会

有松史料調査保存会は３月９日㈭～12日㈰の４日間、棚橋家住宅にて第２回発表会を開催しました。穏やかな好天に恵まれて４日間で５０８名もの見学者が訪れてくれました。11日㈯の中日新聞の朝刊に記事掲載されたこともあり、週末は一日中絶え間ない賑わいでした。昨年度はコロナ禍での実施でもあり、来場者の大半が近隣地区の方でしたが、本年は近隣の方はもちろんのこと、緑区以外の名古屋市内、愛知県内外の方も多数来場されました。また海外からの来場者も６組みえたことが大きな特色です。また大変嬉しいことに本会の趣旨をご理解いただき、貴重な史料をご持参のうえ来場された方が２名おみえでした。この点からも昨年度とは異なる展開になりつつあることに、この活動の意義を感じています。また、１１７名からのアンケート回答では、殆どの方が大変満足した及び満足したとのご感想でした。

今回の主な展示内容は次のとおりです。①有松の懐かしい写真展（昔の街並み、紺家など）②有松の懐かしい街並みや絞り染め工程のビデオ③有松駅の歴史（駅舎の写真、開業時の新聞記事、絵はがきなど）④江戸時代の旅日記に見る有松（東路日記と西遊草）⑤旧家に残る貴重な史料（鈴木金蔵家など）⑥故竹田耕三が収集した世界の絞り布・服飾及び浮世絵などです。また特別公開としてジュディオング倩玉（せいぎょく）が有松を訪れた時の想い出を描いた大型木製版画（夏の涼夢）を展示しました。この作品は第75回白日会記念展（１９９９年）に出品されたものです。総数で１００点を超す賑やかな展示となりました。

今年１年間かけて会員11名が調査した成果です。それぞれが有松に対する強い思い入れを込めて調査しました。４００年の歴史・文化が息づく有松ですが、公的な資料館が無いため、各家庭に残る貴重な史料が時代と共に消滅していくことを避けたい、そして後世にその伝統文化を繋いでいきたいとの思いでいっぱいです。この活動が近い将来において有松に資料館が完成することに繋がることを願っています。

根尾　文彦

第3回「有松まちなみ美術館」令和5年3月2日～5日（切り絵展は3月2日～24日）

有松に飾り雛が春の訪れを告げる季節。町並みをめぐりながら有松の貴重な文化を知って頂きたく、私共NPOが毎年企画開催するこの展覧会、本年は町並みの4か所で絞り作家「片野元彦の世界展」と「豊後藍・筒描き展」「有松切り絵展」「ガラス絞展」を開催させて頂きました。天候にも恵まれ柔らかい日差しの中で沢山の方々が有松とアートの世界を楽しんでくださったと思います。

藍色に染まったこの4日間、その中でも戦後有松絞の再興をかけ独特の世界を築き上げた片野氏の作品は、有松という処を得、圧倒的な美しさと力で見る人を絞の世界に引き込む展示でした。

日本文化の町「有松」の春、楽しんで頂ければ幸いです。

中村　淑子

竹田家書院での片野元彦の世界展

地域文化の伝承

文化財「栽松庵」での有松茶会

幅広い世代に有松を伝えたい

有松あないびとの会では、令和3年度日本遺産事業として、幅広い世代に向けて有松をPRするため、それまでには無かった、やさしい言葉や写真・イラストを多用して、ふりがなを付けた子ども用パンフレットを作成しました。昨年から有松小学校をはじめ近隣小学校の地域学習に役立てていただき、また主に岡家を訪れる子どもさんにお渡ししておりますが、大変好評で在庫が乏しくなったので増刷をしました。今後も近隣にとどまらず、各地の地域学習や修学旅行など児童の皆さんに活用いただくと共に、有松の町並みをご案内して有松の魅力が伝えられるよう皆で頑張って参ります。

加藤　明美

東海町並みゼミ有松大会に参加して

NPO法人伊勢河崎まちづくり衆
NPO法人二見浦・賓日館の会
高橋　徹

新型コロナ感染症の影響で3年ぶりでしたが、有松の皆様のおかげで無事開催して頂き有難うございます。ゼミが若い会員の皆様が中心になって運営を担われ、また地域の様々な方が参加されている様子や元気な姿を拝見し、まちづくり活動が新たな段階にきているのだと羨ましく思いながらも勇気を頂きました。

午前のまち歩きは参加団体が少ないこともあり、私たち伊勢組3人は案内人を独り占め状態で、非常に詳しく案内をして頂きました。

幾度かお邪魔していますが、景観整備はもとより、起業した若い人が絞りへの新たな挑戦をしているお店や岡家住宅の開放案内など新たな風が吹いているのをはっきりと感じました。

基調講演では歴史文化に培われ積み重ねられた暮らしの知恵が文化であり、そのものこそが本物であり、人々を引き付ける魅力を持つことを、また暮らしが息づいている町を目指して町並み保存運動は展開されてきたのであり、時代が変わっても本質は変わらない。

またディスカッションは河村市長の飛び入りがありましたが、地域コミュニティの共感力を大切に、有松の暮らし、生業を充実したまちづくりの継続の結果とし近（金）未来は生まれてくるものである。市長の言われた、ひっそりか、賑やかかの視点ではなく、本物のまちの暮らしの佇まい（職住混在のまち）を大切にすること。そのために日々の努力と挑戦が繰り返されていることが、おのずと来訪者の心に響くものを醸し出しているのだと。

ポストコロナ時代はより地域に根差した暮らしと生業（生活文化）が見直される。地域の固有価値をより有効価値に変えていくことに挑戦努力する大切さを学ばせて頂いたゼミでした。有難うございました。

街角ウォッチング㉓
～3年ぶり、外国からのお客様～

最近、行政からの制限は大幅に緩和されたコロナ対策ですが、状況は難しいようです。

そんな中で、昨年は絞りまつり、国際芸術祭あいち2022、有松ミチアカリ、晩秋の有松を楽しむ会など、イベントがありました。

そして十月下旬には久し振りに海外からのお客様をお迎えし、「あないびと国際部」が総出でご案内を担当しました。

三年ぶりということで、打ち合わせ万端整えておりましたが、当日の道路事情で到着が遅れ、スケジュールはまったく外れてしまいました。町並み散策は僅か三十分程しかありません。それでも山車会館の見学や東海道の雰囲気を感じていただきつつ町歩き。絞り会館では大きく時間オーバーして買い物に夢中、美しい絞りに心を惹かれた様子でした。マスクを外しての記念撮影など、短時間でも滞在を楽しんで頂きました。別れに交わしたグータッチの笑顔が心に残ります。

今年こそは、さらに何組ものお客様をお迎えしたいものです。

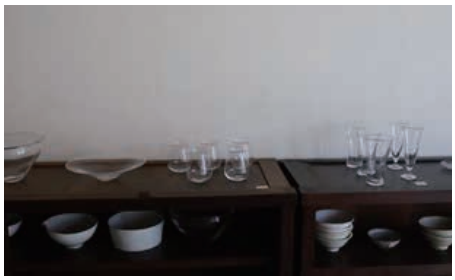
（浅野康子）

町並みの新しい仲間

◆ハセル

はじめまして、2022年9月にオープンしました器のお店のハセルです。この場所と出会ったのはまさに有松の町並みを散歩中のことでした。子供がまだ小さかった為、3年ほど前から通販のみで店を始めました。いい場所とご縁があったら実店舗を持ちたいなと思っていたところに貸店舗の貼り紙を見つけたのでした。有松のこの町並みを散歩することが好きで年に何度か訪れており、歴史あるこの場所で店舗を持つことができたことは本当に幸せなことです。

店では愛知県やその近郊の県に工房を構える作家の手仕事の器や工芸品を扱っています。丁寧に一つ一つ作られた作品ですので決して安くはありませんが、永く大切に使っていただけるような作品をご紹介していかれたらと思います。



子育てと両立中のため営業時間が短い店ではありますが、町の皆さまと顔見知りになりお話をできたらと思っております。よろしくお願いいたします。

住　所　緑区有松三〇〇一－二
営 業 日　木・金・土・日曜日
（その他休みはSNSにて掲示）
営業時間　12時～15時

◆MARUKI

2022年11月4日有松の一角にできた小さな茶屋〝MARUKI〟では、カジュアルに日本茶や自然派おやつをお楽しみいただけます。

緑色ののれんが目印のお店は、のれんをくぐったお客様がどこかホッとしちゃう そんな空間になりますように と店内はリラックス効果がある杉の木をたっぷり使用しました。

心と身体が喜ぶ場所として素材にこだわり、愛情を込めて皆様へお届けしていきます。

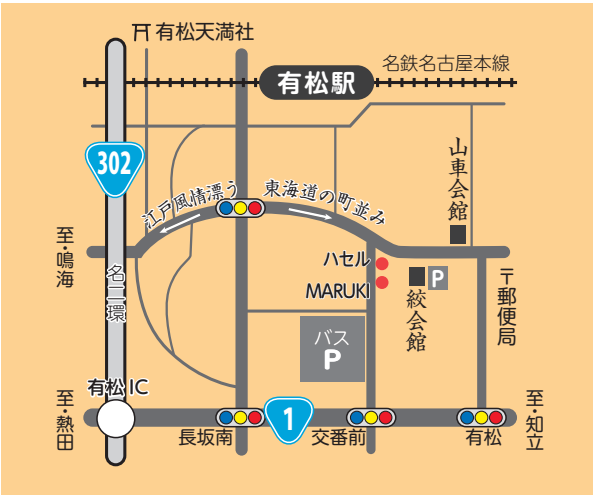
メニューは日本茶をメインに幅広い年代の方がお楽しみ頂けるドリンクをご提供しております。

お茶請けにもピッタリな無添加ナッツやドライフルーツ、素材の味を楽しめる優しいアイスクリームや店主の手作り焼き菓子もご用意しております。ぷらっと店内、テイクアウトもOKです。

有松町歩きの一服やお喋りタイムにふらりとお立ち寄りいただけたら嬉しいです。

MARUKIでみなさまにお会いできることを楽しみにしております。

住　所　緑区有松三〇〇一－二
営業時間　10時～17時
定 休 日　水曜日



有松まちづくりの会　総会

◆日時　5月18日(木)13時30分より

◆場所　有松・鳴海絞会館

第39回 有松絞りまつり

◆6月3日(土)・4日(日)

テーマ「そうなる!?有松」

有松ゆかたまつり

◆開催日　7月29日(土)

～ありまつの夕涼み～

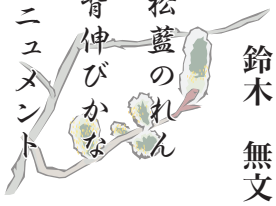
俳句

「春のれん」　鈴木　無文

春風の揺する有松藍のれん

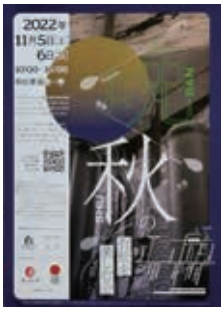
芽柳を仰ぐ媼の背伸びかな

風光る有松藍流(あいる)モニュメント



晩秋の有松を楽しむ会 有松ミチアカリ

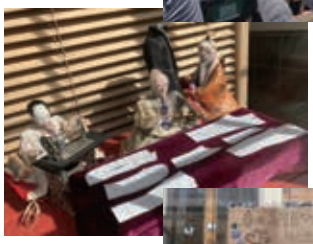
2022 11.5~6



春の有松さんぽ道

～福よせ雛とまち歩き～

2023.2.25 ~3.21



編集後記

中々終息が見えなかったコロナ禍も、やっとこの春から明るい兆し。かつてないほどに縮こまってしまった心も身体も解きほぐして、みんなで集いましょう。日本遺産に認定されたものの十分には伝えられていない有松のまちの魅力。江戸時代の情緒漂う町並みを、東海道が浴衣姿で大賑わいの絞りまつりを、豪華なからくり山車のまつりを、そして世界に誇る伝統産業の「SHIBORI」を大きな声で発信して、有松でしか見られない景色をみんなで楽しみましょう。

（加藤明美）

企画編集（加藤一成・長塚啓・福岡友一・伊藤総俊）

〈有松まちづくり憲章〉

私達は、先人から受け継いだ有松のたからものを守り、次世代に届けるために、この憲章を定めます。

一、有松の町並み・絞り・山車を守り、誇ります。

一、人と人とがつながり、ぬくもりのある有松を創ります。

一、有松の歴史や物語を学び、遊び、伝えます。

有松まちづくりの会

二〇二三年三月三十一日発行

（年二回発行）

〒458-0924 名古屋市緑区有松三〇一二（有松商工会内）

TEL（052）621-0178

FAX（052）622-7401